

香葉



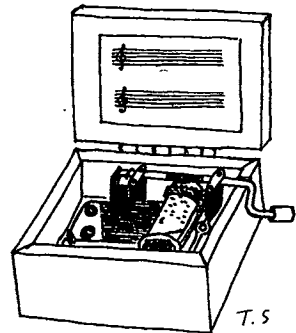
2000

NO. 29

目 次

講演会へのご案内	1
学長挨拶	2
ミレニアムを迎えて	5
県央のつどいご案内	6
女専のページ	7
覚え書(27).....	10
2000年記念座談会『女性の生き方』	13
安藤壽々代先生追悼演奏会ご案内	16
コーヨースポットライト	17
実体験型取材（横浜動物園ズーラシア）.....	18
母校ニュース	22
ハンソン山から	23
ハンソン山特別寄稿	26
増井光子先生講演会	28
香葉室	30
クラス会報告	33
平成11年度決算・平成12年度予算	37
賛助金	38

表紙 関 頼 武
 カット 杉 山 貴 子
 島 村 ひ と み



T.5

国境なき医師団より

医学博士 岩川 眞由美先生 講演会

1999年12月ノーベル平和賞を授与された「国境なき医師団(MSP)」は大規模災害時にいち早く現地へ駆けつけ、国や人種の差別なく医療活動を行っている世界的組織です。今回は岩川眞由美先生において頂き、普段なかなか目にすることができない医師団の現地での医療活動について、貴重なお話を伺えることになりました。皆様どうぞお問い合わせの上多数ご来場ください。



講演会日程

- ・日時：平成12年11月19日(日)
 - * 13:00～ 総会
 - * 13:30～ 講演会
- ・場所：図書館棟 5F 視聴覚教室 (無料)

— 岩川眞由美先生プロフィール —

- 1978年 千葉大学医学部卒業
- 1979年 千葉大学医学部小児外科医員
- 1983年 千葉県立佐原病院小児外科医師
- 1985年 千葉大学医学部附属病院小児外科医員
- 1985年 米国MD アンダーソン病院実験放射線部研究員
- 1987年 千葉大学医学部附属病院小児外科医員
- 1989年 厚生技官(国立習志野病院小児外科医長)
- 1991年 文部教官(筑波大学講師臨床医学系小児外科学)

〈学会活動等〉

日本小児外科学会、日本外科学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本放射線治療学会、日本小児がん学会、臨床外科学会、小児泌尿器学会、Society of Pediatric Oncology
〈賞〉

日本女医会学術研究助成賞、日本小児外科学会優秀発表賞、エッソ女性のための研究奨励賞、吉田科学技術財団海外派遣研究者賞

今までの講演者・演奏者名です。(敬称略)

1985 永井 路子	1993 呉 善花
1986 鳥飼玖美子	1994 大庭みな子
1987 田中喜美子	1995 佐伯 輝子
1988 関東学院ハンドベルクワイヤ	1996 大塚野百合
1989 宮崎 安子	1997 関東学院ハンドベルクワイヤ
1990 吉武 輝子	1998 本田 桂子
1991 吉屋 敬	1999 増井 光子
1992 円 より子	

★短大祭「香葉会の部屋」ご案内★

短大祭両日、卒業生と在校生・教職員の交流の場として、『香葉会の部屋』を開室し、コーヒーとクッキーのサービスを致しております。お友達・ご家族お問い合わせの上お立ち寄り下さい。

* 11月18日(土) } 短大祭
19日(日) }

3号館106号教室にて

* 香葉会会員の手作り小物、クッキーの販売も致しております。

学長挨拶

学長 吉田 博



二十一世紀を表すキーワードとして、情報化、国際化、少子高齢化、環境破壊、バイオテクノロジー、価値観の多様化、発信源

の多様化、さらに私の希望的要素を含むならば、死生観の変化、人間性の回復などが念頭に浮かんできます。とりわけ情報化の進展には目を見張るものがあり、コンピューター能力も一年ごとに倍々ゲームで上昇し、二千年問題の大騒動をみていると、今や世界の情報管理はコンピューターに支配されてしまったかのようには思えてきます。

わが身を振り返っても、己の頭脳を駆使して情報を記憶することは少なくなり、必要なときにはすぐさまコンピューター情報に頼ろうとする自分がそこにあります。

私に限らず、二十一世紀はこの傾向がさらに強まり、知識や教養までもがコンピューターのものとなり、人間は

単にそれを利用するだけの存在になってしまおうのではないかとという危惧をも感じております。

コンピューターによるネットワークは、今や各家庭にも張り巡らされ、昼夜を問わずに情報交換が可能となりました。主婦もパソコンを駆使し、在宅で仕事をすることが可能となり、家庭のオフィス化も急速に進展しました。私の少年時代には一台のラジオを聞き、一台のテレビを見て、同じ情報を家族全員が共有しておりました。しかし、今や情報ツールは個人のものとなり、インターネットやeメールという新しいコミュニケーションの手段が生活の場に浸透し、機械的にキーボードを叩き、必要な情報のみにアクセスしている学生たちをみていると、「切り取られた情報の世界の中でのみ生きている」かのように思えてまいります。

人と人をつ結び、互いを知るために必要であった情報というものが、今やモノと同じように消費されるものとなり、人から人へと経験を重ねることにより伝えられてきた様々な生きる知恵が、情報化の進展という名のもとに失われつつあるように思えてきます。切り取られた情報は点として理解できても、線や面に拡大して理解することは難しいことです。

情報をアナログ的に連続したものとして扱っていた時代と、情報をゼロとイチという記号としてデジタル的に扱う時代とでは人間関係にも大きな違いが出てくること

が予測されます。自分の心や人の心は、連続的かつ多様なものとしてとらえていくことが必要であり、そのためには情報化されない部分をも創造しうる力や、異なるものをも受け入れる感受性というものが要求されてきます。時代は大きく転換しようとしております。情報化時代は、判断のための情報はたくさんありますが、それだけに迷いの多い難しい時代でもあります。今の学生たちにとって最も必要なことは、有り余る情報を取捨選択できる能力を高めていくことではないかと思えます。

本学では、大きく転換しようとする時代の流れの中で、二十一世紀においても存在感のある教育機関としての役割を担うべく構造改革に着手いたしました。十八歳人口の激減、女子の四年制志向、共学志向、資格志向という時代的背景の中で、教授会や理事会を中心に論議を重ね、現在、文部省でいう、『平成十二年度以降の大学設置に関する審査の取扱方針』の中の、『入学定員の増を伴わない改組転換』の条件の範疇で、関東学院女子短期大学を関東学院大学の一学部（仮称：人間環境学部）に改組転換することを確認いたしました。最終的には七月に予定される学院評議員会での最終承認ということになりますが、現在、その方向で文部省との事前協議を開始いたしました。

人間環境学部設置に関する学院のコンセンサスとして、

- (1) 関東学院女子短期大学を共学の四年制の人間環境学部
- (2) 部に改組転換する。
- (3) 場所は、女子短期大学が立地している室の木校地とする。
- (4) 学部名は、人間環境学部（仮称）とし、現代コミュニケーション学科、人間環境デザイン学科、食生活デザイン学科、人間発達学科の四学科構成（仮称）とする。
- (5) 開設年度を、平成十四年四月一日を目標とする、等々

です。

今後の文部省との事前協議の過程で、学部名、学科名、入学定員数、学部設置趣旨、教育方法等は収斂していくことと思えますが、今回の改組転換の基本原則は、文部省でいう『平成十二年度以降の大学設置に関する審査の特例による改組転換の範疇』で女子短期大学を四年制の人間環境学部

に改組転換するものであり、「短期大学の学問分野上の同一性を確保すること、そして同一の校地、校舎、設備等を用いること」などがその前提条件となっております。

一昨年の日本私立短期大学協会の報告書に、全国、約六百校近くある短期大学のうち、二百四十校近くが四年制への改組転換を検討中というアンケート結果が報告されておりましたが、文部省はそれらの動向を見据えてか、本年三月末に、「平成十四年度以降の新設学部については、学部設置の審査を二年審査から一年審査に改める」

という文部省通達を行ないました。大学教育が社会の急激な変化に対応していくためには従来の審査スケジュールでは追いつかないと文部省は理解したのではないかと考えております。

この文部省のタイムスケジュールに基づきますと、本学の人間環境学部への改組転換は、その基本構想案を明年四月末までに文部省に申請し、その後、文部省による審査がなされ、順調に進めば、明年十二月に認可、そして新学部の開設は、平成十四年四月一日ということになります。その結果、関東学院女子短期大学は、平成十四年四月一日から学生募集を停止し、在学生の卒業をまとめて廃止する、という手続きをとることになります。

今回の女子短期大学の改組転換は、「平成十二年度以降の大学設置に関する審査の取扱方針」という文部省のいう改組転換の特例措置により行われるものであり、女子短期大学の五十年の伝統のもとに築きあげられてきたノウハウを生かすことも必要条件の一つとなります。一方では、大きく転換しようとする二十一世紀社会にも柔軟に対応できる魅力ある教育機関でなければなりません。明年四月末の文部省申請までに、学院の叡智を結集し、人間環境学部の教育ビジョン、教育方法を始め、魅力ある学部作りのための論議を十分に尽くしたいと考えております。香葉会の皆さまには、いずれ方向が明確に定まった段階で詳細な報告を申し上げたいと考えております。

なお、人間環境学部の設置趣旨の一節に以下のようなことを明記したいと考えております。

『二十世紀は人類にとって試練の時代であったが、その展開は急速かつ高度な科学技術の発展や高度工業化社会の成立と表裏一体となって実現してきた。日本の社会においても、一方では物質的に豊かで快適な生活を享受することが可能になってきたが、他方では、「こころ」のあり方に起因する様々な問題が生じ、社会問題として取り上げられるような事例が教育の現場にも次々に登場するようになった。

このため、日本固有の伝統的生活・文化様式がその中でどのように受け継がれ、活かされていくかという重大な課題にも直面することとなり、加えて、現代社会はこれまで経験したことのない急激な少子化社会、広範な高齢化社会を迎えることになった。このような社会経済システムの高度化・複雑化やグローバルな情報・知識社会の急激な進展の中で、地球環境の保護・保全や資源循環型社会の実現など、自然と人間の共生をも視野に入れた人間社会の環境システムの構築が求められている。

本学院は、このような社会状況の急激な変化に実践的に応えらるとともに、社会動向の変化による女性の四年制大学志向の増大という状況のもとで、五十年間の短期大学教育で培った実践的教育の経験を踏まえて新しい教育

の視点を設定し、かつ専門分野の充実を図るため、既存の関東学院女子短期大学を発展的に改組転換し、関東学院大学の既存の学部との有機的連携の中で、男女共学による人間環境学部の設置を申請するものである。

本院は、人間環境学部において、建学の精神に沿った特色ある教育・研究を実践することにより、時代が求める豊かな人間性と教養を備え、現代社会が抱える様々な課題に対して幅広い視野から総合的に探究し、解決することのできる人材、言い換えれば、強い精神力と豊かな感性を持って社会に対して積極的に係わり、新たな時代を担うことのできる人材の養成を目指したいと考えている。』

ミレニアムを迎えて

会長 古城 房子



キリストの生誕から二〇〇〇年、心配されたコンピュータの誤作動もなく、無事に二十世紀最後の年を迎えて、この百年の間

に人類の成し遂げた科学の驚異的な発展に深い感慨を覚えます。このかけがえのない時代を共に歩んできた先輩、後輩、友人達に支えられて「香葉会」は育てられてきました。今年は九三二名の新会員を迎えて活動を始めました。五月二十六日に今年の卒業生から選ばれた六人が年度委員になって下さいました。学友会で活躍した積極的な若者達です。年度委員会の平均年齢がぐっと下がり、元気づけられております。

今年吉田学長と、折橋教授（法人事務局長）が委員会に出席して下さいました。それによりまず、平成十三年のお話がありました。それによりまず、平成十三年の短大入学者を最後として「人間環境学部」という四年制の大学へ転身するという事です。「短大がなくなってしまうの？」という残念な気持ちを抱かれる方もあるでしょうが、私としては「短大が大きく発展する」と考えたいと思います。戦後すぐ始まった女子専門学校から学制改革で短大に、更に大学へ、という発展です。

ここに至る迄、短大を解体して大学へ吸収しようという動きもあったと考えられますが、今までの各科の性格と伝統を残し、学部として立ち上げ、短大の教員、事務局をそのまま引き継ぐ為の、ここ数年の吉田学長の理事会、文部省との折衝、学内の意見の調整等々、そのご努力、ご苦労は並大抵のものではなかったと拝察します。この学長であったればこそ、実現できたことでした。

「香葉会」は卒業生の為の会ですから、短大から大学へ変わっても、その存続は必要であり、できる限り学校への協力と応援を惜しまないで、学長の捨身の献身に応えたいと思います。

今年も例年のように「香葉」の発刊、短大祭への参加、講演会を計画しております。コンピュータを購入して名簿の整備をします。留学生への奨学金は今年度は一人が対象ですが、この不況を反映して学費の援助を必要とする在校生が多くなってきたので、学校の奨学金基金への寄附をしたいと考えております。

以前では考えられないような、若い人の凶悪な犯罪がふえて、幼い時からの人間教育が問われる時代になりました。吉田学長は大学の教育の基本に、関東学院のミッシェンスクールとしての伝統を守ることを考えておられます。この学院で学び得たことが、社会で、家庭で生かされて、人間性を取り戻した地球になって欲しい……と二十一世紀に期待しています。

「香葉会」の今後の活動については、財政的なこともあり、縮小を余儀無くされるかもしれません。委員の皆様と十分に討議を重ね、伝統を継承していきたいと思っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

(英一)

関東学院 県央のつどい

開催のお知らせ

燦葉会と合同で開催しております「県央のつどい」も今年で二十周年を迎えることになりました。今年は二十年という節目の年なので、マジックショーや豪華商品を取り揃えたお楽しみ抽選会などを盛大に開催いたします。

神奈川県中央にお住まいの会員の皆様、一緒に楽しい一時を過ごしませんか。

同封の葉書(講演会・県央のつどい)に出席をご記入の上早めにお申込みください。お友達も是非お誘いください。

日時 平成十二年十一月十一日(土)

午後五時三十分

会場 厚木ロイヤルパークホテル

小田急「本厚木駅」北口徒歩五分

電話 〇四六―三二一〇〇一(代表)

会費 六、〇〇〇円(女性)

※厚木、大和、海老名、座間、伊勢原、相模原等々皆様ぜひ御参加ください。

女専のページ

雪の夜ばなし

(女専英1) 鶴見 愛子

雪は罪罪として降る。雪はしんしんとして積もる。風に舞い、木々や家々を白く装う。雪はひっそりと優雅な冬の叙情的な風物詩である。……と、横浜生まれの横浜育ちの私は、そう思っていた。ところが、さに非ず。此処、北海道に任んで初めて知ったのだが、雪は時として荒々しく吠え、非情で兇暴でさえあるのだ。自然のもたらす的威力に戦慄を感じることもさへ屢々だ。それがナント或る時豹変して、実に創造的な芸術性を具現して、見る人を驚嘆させるのである。

雪は早い時には、十月の半ば頃、白くて小さな、体長六・七ミリの、手に

取ればすぐに潰れてしまふ頼りなげな雪虫の、辺り一面を蔽う乱舞をさきかけとして、厳しい西風に乗ってやって来る。そして半年の間、ドッカと居坐る。



北海道の雪は水気が少なく、極めて細かくサラサラと軽い。降り敷いた上を歩くと、キュッキュッと、まるで片栗粉を揉む時の様な音をたてる。衣服についても手で払えば、サッと落ちる。

その為、傘をさす人は殆どいない。正月の晴着姿の娘さん達も同様で、振袖にかかる雪を気にも止めない。子供達には積もった雪の上に坐りこんで遊ぶ。こうした事は、長い間に培った雪との平和な共存風景だ。

だが、天候が悪化した時、雪は様変わりして、吠え叫ぶ魔王となる。たとえば、夜半、荒れ狂う北西の風に跨って雪は中天から急降下し、地に着くか着かぬ間に、又、遙か天に溯って高々と噴き上がっていく。そうかと思えば、今度は立ち並ぶ家々の周囲を渦を巻いて暴進する。地上にある雪も負けてはならじと、ドッと煙を吐き散らして、東へ、南へと拡がり翔んでいく。それらが入り混じって巴と、どよめき、ひしめくのだ。あの「嵐ヶ丘」のヒースクリフが亡き恋人キャサリンを呼び求めて悲痛な叫びをあげたのも、こんな夜だったのだろうかと思う。

或る時は又、まるで豪雨の様に隙間なく、真直ぐに落ちて、恰も雪のそばりに見えるのが、そのままの状態で烈

風に押しまくられて猛スピードで西から東、と途切れずに走っていく。丁度、芝居の幕が引かれる様に。もし、再び幕が開かれれば、どんな場面が観られるのだろう。絶望に身も心も打ちひしがれたリヤ王が、さまよい出るのではあるまいか。それとも雪女が冷たい微笑を浮かべて霧の様に佇んでいるのであろうか。

街灯の僅かな赤い光の下でのダイナミックな雪の饗宴は、様々な想像をかきたてるのだ。

さて、夜が明け、吹雪が嘘の様に静まって、太陽が昇ると、夜半の猛々しい風景とは打って変わって、素晴らしい光景がキラキラと眩しく目を射る。吹き寄せられ、堆く積もった雪に、風がノミとなり、絵筆となって、美しい造形を仕上げていく。それは、或るものはルノアールの裸婦の健康的な胸の豊かな曲線であったり、或るものは東山魁夷の静謐な風景画のたまたまいであったり、といった工合である。まさしく、動と静との相反する世界を、同

じ視点で、時を異にして堪能出来るのである。爽かな空気を楽しみつつ、北海道に住むのはオツなものよと思う今日此の頃である。



卒業してから半世紀

(女専家1) 佐藤 久子

私達女専一期生が卒業した一九四九年から五十年が過ぎて、その記念の集いが一九九九年十月二十八日、横浜ホテルリッチ桂川で、澄谷さん、中嶋さん、横山さん、吉田さんのお世話で開かれました。出席者十四名(英六、家

八)。そして今迄の様な形の会は今回を最後とし幕を下すことに致しました。今後は折をみて有志が集まることになるでしょう。思い出いっぱいの同期会記録ノート(一九五九年以降)は城さんが快よくお預かり下さることに決まりました。又城さんから全員にお心づくしのプレゼントを戴きました。

皆同期会との別れを惜しみそれぞれ
の思いをノートに残しました。その中
より一言づつ御紹介して、お別れクラ
ス会の報告とさせて戴きます。

(敬称略、記載順)

。前回の女専の集いから三年、皆様も古稀を迎えられ過ぎ去った年月を感慨深く振り返っていらっしやる事と思えます。近況としては杉崎日出子様が永眠日よりご冥福を祈ります。又病氣療養中の方々の一日も早いご快癒を祈ります。

幹事 澄谷 亮子 中嶋貴美子
。今日御出席の方をはじめ皆様、鎌倉へお越し下さい。歓迎申し上げます。

城 多恵子

。人間が一生に出会う人の数は限られているとききます。出席できたことが何より嬉しく、友情が長く続くよう祈ります。

篠原 愛子
皆様とお顔を合わせることに幸せを感じています。年をとったら健康第一、いつまでもお元気で。

細野サト子
久しぶりに皆様にお目にかかり若い頃を思い出し何とも云えぬ感慨です。お身体に気をつけられ又お逢いできれば幸いです。

樋口 敬子
今回も出席できてよかったです。いつも考えあぐねて結局は出席、その都度来てよかったと思うのです。今回で最後とは少々さみしいですね。

岩田 郁子
皆様にお逢いしてなつかしく若かりし頃が昨今の様に思い出され、又元気でお逢いできる事を楽しみにして居ります。

斉藤 富代
今回は小人数で親しくお話ができ嬉しく思いました。又お目にかかれたら……と最後の会がおしまれます。

吉岡八重子

。なつかしい皆様との会食は無上の幸福を感じます。これで終わりとは残念です。招集をかけて下さればいつでも参上します。いつまでも仲良くいきましょうね。

朝広美知子
なつかしい方々にお逢いできて嬉しく思いました。右手首骨折のためペンが思うようにもてません。失礼しますね。

森岡 茂代
卒業五十年の集いを十四名で締めました。出席できた俵せをかみしめた楽しい一ときでした。又逢う日まで、お元気で。

佐藤 久子
同期会の最後の幹事を済ませ、何か感無量の気持でいっばい입니다。お名残惜しい散会となりました。

幹事 横山 凉子 吉田 弘子

同期会の後、篠原さん、森岡さん、吉田さん、私の四人で三春台校舎を訪れました。篠原さんの御令息篠原望先生（関東学院高校）が名ガイド名カメラマンで校内を案内して下さいました。

立派な校舎の中に昔の面影残る處ありで、今昔の感胸一杯でした。上市先生の御新婚住宅はお茶室お茶庭に、マーガレットの花を胸に飾って卒業証書を戴いた体育館は今はなく夢の跡、最後に市の永久保存建築物に指定されたという、あのタワーのある本館の前で記念のカメラに収まり、思い出の地を後にしました。時間の都合で坂田記念館には寄れませんでした、古い資料も残されている由、又の機会を約束して帰りました。此の次は三春台で皆さんと逢うことにしようかとも思っています。



覚え書(二十七)

―女専・短大小史―

上 市 二 郎

「私達の学生時代は木造校舎で、授業の終鈴が鳴る前に廊下を下駄履きで、歩く学部の学生さんがいたのには、ほとほと迷惑したものでした。あの時代からみると今の短大生は本当に恵まれていますね」と。昨年九月二十五日(土)英文科第二部卒の会合が中華街の永華楼で開かれ、その中の出席者の声でした。勿論この集まりについては幹事の方から詳しく報告があるでしょうが、色々思うと、時の過ぎ去るのは本当に早く、つくづく考えさせられます。そして、時代の流れは次の様なことを産み出していくのか?と。去る五月二十八日(日)横浜駅西口の横浜ベイシェラトンホテル&タワーズで橄欖会定期総会が開かれました。(橄欖会^{かんらんかい}は三春台校地出身者の会は関東学院同窓会を構成する一つの部会です。)その後の懇親会の席で理事長内藤幸穂先生が挨拶を述べられました。その挨拶の中で先生は次の様な将来案をも語っておられました。「……六浦校地では室の木の地(現在女子短期大学のある所)に二千名規模の四年制大学を二年後に発足させるべく改組の準備を進めています……」と。

現在の少子化に於ける女子の高等教育を何のように推進して良いのか、大変なご苦労が感じられました。然し現存する各学科はどうなるのだろうか、とか、現在の短期大学は何の様になるのか、等々、別の紙面で関係者からの説明・報告があることと思います。

さて、前号に於いては昭和三十八年十一月十一日(月)から十五日(金)にかけて行われましたキリスト教強調週間の模様を記述したところで終わっています。

此の頃は教室が大変不足していた為に短大専用の教室が欲しくて何とかしなければ、と常々考えておりました。そしてその傍の工学部、確か工業化学科の準備室だったでしょうか、既に屋上利用の部屋がありました。それに目をつけて短大館の屋上にも出来ない事はないと考えました。ここにプレハブの教室を乗せるべく施設課長の江崎氏に相談を持ちかけてみました。幸いに早速実施することになりました。

いよいよ造設工事が始まり、やがてプレハブ式の大きな蒲鉾屋根を有する教室が完成する運びとなりました。合併教室としては明るく大変評判が良かったのですが、雨漏りがひど



“思い出のアルバム”より

いのは、いささか閉口しました。それは当然だろう、と後で思い当たることがありました。筆者は全くの素人で、付け足し工事のことは判りませんでした。その為、時折り工事中の作業を見て廻った時のことです。屋上の防水加工してあるコンクリートの屋根面（完成すれば床面）を削っているところでした。後日そこに改めて教室の床面としてのコンクリートを流して美しく仕上げていました。確かに見た目には綺麗で感じが良くなりました。処が雨が降って雨水が壁面にじわじわと滲み出てくるのは驚きました。それに風でも加われば、益々吹きつけた雨は余計に合併教室の壁から染み込んで広範囲に水路を造って三階の教室へ、そして二階迄へと滲み出してくるのです。当時の二階には語学演習室があって、電気器材が沢山ありましたので非常に心配でした。本当にこれにはほとほと閉口しました。そんなことを思い出しながら筆を進めています。あの折、足ざわりが悪く、そして見た目にも悪くても屋上をそのままにして組立式の合併教室として使用すれば、例えば雨が吹きつけ雨水が滲むことがあっても、その部屋だけのことで打っ手立てはあった筈です。余りにも目先のことに囚われ過ぎた結果、無駄な費用を注ぎ込んでしまいました。しかし、この思い出が多い短大館の模様替えなどを含め、今ともなれば懐かしい初期の短大館も大学の建物（SCC館ベネットホール）を造る折取り壊されて、その姿は写真のみとなっ

て仕舞いました。

いよいよ昭和三十八年の暮を迎える。十二月ともなるとクリスマス色々な行事のことが浮かんできます。この年の五月一日（水）の会議で学長から次の様な報告がありました。本年の十二月には各学校毎にクリスマスは行わず、学院全体のクリスマスを横浜文化体育館に於いて、合同クリスマスとして行うこととなりました。その準備を進めるのですが、委員長には相川高秋先生が決定し、来る六月十七日（月）に会場申込みを経て決定し、本格的準備を進めることになりました。そして、クリスマス合同礼拝は十二月十七日（火）に行われることが正式に決定しまして、この日のためコーラスに参加する多くの学生は練習に入り、プログラムを作成して詳細に巨り詰めを行いました。これが全学院合同クリスマスとしての第一回となりました。当日のクリスマス献金は一人五十円とし、献金先は日本キリスト教海外医療協会に当てることになりました。英文科第二部のクリスマスは十九日（木）の予定でしたが、全学院のクリスマスに合せて十七日（火）夜短大ホールを使用して行うこととなりました。

キリスト教教育同盟主催の教育研究会、全国大学部会が十二月六日（金）七日（土）に大磯アカデミーハウスで行われ、短大からは相川学長と斉藤衛講師が出席しました。また、教育同盟関東地区協議会大学部会は明けて

昭和三十九年一月二十日（月）二十一日（火）モーター箱根で開かれていました。テーマは「現代社会に於けるキリスト教主義大学」、講師は桜井信行氏でした。本学からは学長、柴三九男教授と下田哲講師が出席しました。この年の創立記念講演会は二月十三日（木）高島屋ホールで短大と大学経済学部との合同にて開かれました。この折の短大からの講演者は相川学長に決定、演題は「外国で見た日本」でした。

この頃、アメリカの女子大学スティーヴンカレッジから学生交換の提案がありました。これをどうするかが討議され、相川学長としては学校のカリキュラムと抵触しない様に夏季特別プログラムを作って、夏期休業中に特別コースを設けることにしてはどうか、と云う事が提議されました。（一月の会にて）

スティーヴンカレッジから学生二十五名、教師四名を当短大に送る用意がある旨の返事がありました。（出来れば本年中、それが不可能なら来年）についてはプログラムを至急に作成して送って下さい、との依頼がありました。

プログラムは早速、主としてエリオット教授（現大学文学部教授）に依って作成され、それに依ると七月から八月にかけて渡日され、寮に住んでもらい、毎朝一時間の講義、その後は観劇、旅行などを主として行うこととする。なお、交換学生を一名（一年間）同カレッジに送

ることが出来る。渡行費用のみ当該学生が負担し、渡米後は同カレッジが全額負担する。学生主事、英語科担当教員で十二月中に入選を行う。（二月の会にて）

スティーヴンカレッジの学生の来日はカレッジ側から一年延期して欲しいと云う申し入れがあった。来年度は当方の都合上、実現不可能なので（エリオット教授が休暇で帰米するため）その翌年実施の予定とすることになった。（三月の会にて）

この年度の学生のスキー教室は、湊先生、岡先生、中田先生の三氏に依り次の日程で行うことになりました。第一次は一月四日～八日、第二次は二月十八日～二十三日、第三次は二月二十四日～二十九日となっています。

これらに参加された香葉会員の方々は良き思い出となっていることでしょう。



下田先生 藤原先生 市上先生 時田先生

上市二郎氏紹介

昭和二十二年奉職。昭和六十年退職までの三十八年間短大の事務長を務められました。

横須賀市在住。

2000年記念座談会

『女性の生き方』

今年、2000年と言う節目でもあり、短大が進化を遂げようとしている時です。

それぞれの年代の女性の生き方をテーマに、女専1回生の城、多恵子さんをお招きして、平成11年度の卒業生を含む9名で座談会を平成12年5月20日(土)に開催致しました。

城さんは英文卒です。当時の学生達は、交通網の関係により通学時間が今とは違い大変長くかかったようです。しかしその時間を有効に活用し、勉強や裁縫等学ぶことに対して常に前向きな姿勢で取り組んでおられました。現在の短大がここまで成長できたのは、城さんを初めとする諸先輩の活躍があったからだと言っても過言ではありません。

座談会出席者

城 多恵子(女専英1)	古城 房子(英1)
小濱 朝子(英3)	白土紀久子(英9)
井上 啓子(家26)	川上 智子(英47)
浦上 恵(経10)	谷田部直子(英48)
吉田 美佳(国32)	

井上：本日はお忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。様々な年代の方々の女性の生き方などお話戴ければ幸いです。

城：私たちが学生の頃は、終戦直後だった為、日本はまだ混乱していました。また、学生といっても年齢はバラバラで中にはご主人を戦争で亡くされた方など、とにかくいろいろな人がいました。その一人一人が学ぶという事に貪欲で、真剣に取り組んでいました。戦争で失われた時間を取り戻すことに夢中でした。

小濱：衣食住そのどれもに、日本国中が飢えていた時代、女専の方々は、学ぶことに一番飢えていたのではないうのでしょうか？今の若い学生達には考えられないと思います。

古城：短大1回生の私達からみると、女専の方々はそれぞれ何か信念を持っているように感じました。



小濱…女専の方々は、本当に勉強熱心で実力があつたと聞いております。

城…女専の英文科は、その実力を評価して頂き、英語教師や貿易関係といった英語の力を特に必要とされる場で活躍しました。また、それだけの実力と自信を自負していたと思います。本当に皆さんよく勉強をしていました。今思うと、そうそうたる仕事についていた方ばかりです。

小濱…私達の頃は短大だけで、シェイクスピア劇をやっていましたか・・・

城…そうですね。私達の頃は女専だけでした。

〔第一回シェイクスピア劇で、ヴェニス商人のポーシャを熱演。(香葉25号参照)〕

井上…今は大学と合同でシェイクスピア英語劇は続いていて、毎年12月に公演されています。

白土…私も、柳生先生に付いてシェイクスピア劇を学びました。結婚後は、主人の転勤で海外生活が多かったのです。でも関東学院で学んだシェイクスピア劇のおかげで、『どこで学んだの?』と言われるくらい英語力が身に付いていたのです。

城…私達の頃も、皆熱心に練習していました。

井上…私達が学生の頃は、少し前まで学生運動がピークで、まだ古い校舎のあった時代でした。学友

会会長だったので、学園祭の時など、大学との交流がありました。やはり、学友会の事が一番思い出深いです。

川上…私も学友会委員だったので、二年間がとても充実していました。学友会は、学科やクラスを越えた友人です。辛い事もありましたが、皆で一つのことを作り上げていく喜びを分かち合った仲間です。クラスの友人とは何か違う絆のような物がありました。

浦上…私も、学友会で学んだ事が仕事に反映されています。

吉田…仕事をしていて思う事があるのですが、仕事でも男の人と女の人が平等ではないのです。会社では女の人は結婚したら辞めるのが普通という考えがあるのです。

浦上…しかし、お客様にお茶を出したりするのは女性の方が適しているし、男



と女ではなく、人間と人間で考えるべきだと私は思います。

古城…今の人は、結婚は良い人がいたらするけれど子供はいらないという人が多く、30才位までしない人も多いようです。

井上…子供ができて初めて分かることが多いですね。

自分に子育てが、本当にできるのかと不安だったのですが、自然とできるようになりました。今、幼児虐待が社会問題になっていますが、幼い頃にそれに似た行為をされていたからではないでしょうか。女性の生き方は、理論ではなく、遺伝子で伝わっていくのではないのでしょうか。

古城…私も実は、昔は子供があまり好きではなかったのです。でも、子供が生まれた時に変わりました。自分の子供を持つと違うのです。

浦上…まだ若いから分かりませんが、これから子供を産んで育てて行く事が不安です。子供はかわいいから欲しいけれど、これからの社会の中で育てていくことは難しいです。

城…私は、結婚するのが早かったのですが、毎日無我夢中で子育てと仕事を両立していました。戦後の混乱の中、三人の子供達を学校に行かせる為に、何度も学校に足を運びました。

古城…そう言えば、昔はお見合いが多かったですね。

昔は、結婚イコール家を守る事でしたが、今は根本的に考えが変わったようです。

吉田…今も、結婚イコール家を守る事だと思えます。女の人が家を守って、旦那さんを立てる。旦那さんを大黒柱にして、お互いに感謝する事が結婚だと思えます。女性だからできる事もあるし、男性だからできる事もあります。

封建的な考えの男性が、女性の欠点を強く押し出したために、男女平等問題がでてきているのではないのでしょうか。

谷田部…例えば、男の人は大学の中で考えが同じになっ
てしまうような気が
がします。言い換
えれば、個性がな
くなってしまふの
かも知れません。
反対に女の人は、
お互いの様々な事
を吸収し合う中で
個性を出していま
す。個人がそれぞ
れの考えを持つ事
は、とても大切な
事だと思えます。



時々『同年の男は頼りない』と言う人がいます
が、精神的な部分で男と女では違うのかも知れ
ません。

古城：谷田部さんは、これから社会に出て行く中で、
個性を強調していきますか。

谷田部：流される事はないと思います。これまでに、自
分の考えを持って前に進んでいく精神を学んだ
と思います。関東学院の短大・大学で学べた事
を誇りに思います。

浦上：今日聞いた城さんのお話を伝えて行くべきだと
思います。

城：若い方々のお話が聞けて、嬉しく思います。人
の為に何かをするという気持ちが育っています
ね。

古城：短大もこれからは、今までの精神を生かしつつ
変わっていく時期です。大学となり、女性の生
き方を学べる学科が多くなると、女子学生が増
えるのではないでしょう。

【座談会を終えて】

今回の座談会では、『女性の生き方』に付いて、年代
を越えてそれぞれの考えを話し合う事ができました。今
の若い人達は仕事や学業面において、やろうと思えばど
んな事にもチャレンジできる恵まれた環境の中で育って

いるのだと感じました。戦後の混乱した中では、今日の
ような社会が来ることは、想像もつかなかったのではな
いでしょうか。だからこそ、今を生きる私達はこの社会
で、自分の考えを持ち進むべき道を探し、その道を自分
の足でしっかりと歩いて行かなければならないと思いま
した。

文責 川上智子(英47)

安藤壽々代先生 追悼演奏会

日時 11月5日(日) PM 2:30
場所 関東学院短大 チャペル



昨年11月5日に神に召されました安藤先生の追悼
演奏会を短大のご厚意により、短大チャペルにおいて
演奏する機会を得られました。先生が長年指導してお
りました、女性コーラスグループ『横浜フラウエンコー
ル』が主催致します。

入場は自由です。皆
様お誘い合わせの上
おでかけ下さい。

連絡先 香葉会

○四五―七八七―七八五九

(葛城まで)



コーヨースポットライト

「私のすずむ道」

英文48 谷田部 直子



に進みたいのかをじっくり考える上でも、とても大切に貴重な時間でした。英語が特別得意という訳ではなかったのですが、英語の力を伸ばしたいという気持ちから英文科に入学した私は、会話や発音といった、それまでは深く学べなかった分野や、更に難しくなった文法等を学ぶ中で、それまで以上の努力が必要であると感ずることがありました。努力とは決して簡単にできることではなかったけれど、自分で選択

した道を後悔するのではなく、多くを吸収して二年間を終わりたいという気持ちで、自分なりに精一杯取り組みました。

また、友達にも恵まれ、学友会の仕事に参加させて頂けたおかげで、有意義な短大生活を送ることが出来ました。そんな中で、二年生になり周りの友達が就職活動を行なう中、私は、四大で経済について学びたいと考えていました。しかし、自分の中で迷うことや不安があり、なかなか進学を決断できませんでした。そんな時両親に、「自分の進みたい道を選んで、納得するまでがんばりなさい。」と、理解のある言葉をかけてもらった時、それまで自分の中ではなかった、就職しななければいけないのではないかと、進学した後で、就職した方が良かったのではと後悔するのではないかと、という不安がなくなり、進学したいという強い気持ちを持つことができました。しかし、学科が違うということもあり編入は難しく、一年間履修登録生として在籍することになりました。

履修登録生の、限られた数しか授業

が履修できず、クラスも学年もない状況は、考えていた以上に辛いものでした。何よりその中で、共に学ぶ友達を作るのは簡単ではありませんでした。

しかし、もともと人見知りをしない性格と、短大の頃、学友会の仕事で渉外局長としての経験から得た、初対面の人も恥しげに話しかけようという気持ちで接することで、一カ月程で全ての教科に友達ができました。この恵まれた環境の中で私は、企業の経営上の基本知識や、政治の歴史等を学ぶことができました。

今、短大からの三年間を振り返ると、私は多くの知識を得ただけではなく、自分で道を選択する力と自信がついたように思います。

何より思うのは、相談ののって頂いた学生課の先生方、暖かい声をかけてくれた友達、いつも私を理解して、背中を押してくれた両親・家族への感謝の気持ちです。ありがたうございました。また、これからも私は、多くの友達に支えられていることを忘れずに、頑張っていこうと強く思っています。

実体験型取材

横浜動物園ズーラシア篇

経10 浦上 恵

ゴールデンウィーク最終日。今年の編集委員一同は、「世界一周の動物旅行」へ行ってきた。

国内最大級と言われているよこはま動物園「ズーラシア」で、太陽いっぱい五月の休日を満喫させていただいたのだ。



「ズーラシア」
たとえば、
昨年の短
大祭で開
かれた、
香葉会主
催の講演
会で、講

演してくださった、「増井光子先生」

が園長を務めていらっしゃる動物園であり、昨年一九九九年の四月二十四日の開園以来、沢山の人々が訪れ、「世界一周の動物旅行」を楽しんでいる。

「ズーラシア (ZOORASIA)」とは、よこはま動物園の愛称で、「動物園 (ZOO)」と広大な自然をイメージした「ユーラシア (EURASIA)」の合成語で、平成八年の秋に市民公募で選ばれたそうである。

しかも、今はまだ一時開園と言うことで、前面開園すると、面積は約五三・三ヘクタールで、東京ドーム約十二個分にもなるという。

「動物園」と言えば、幼い頃に両親に連れていってもらったり、遠足で行ったなどというイメージが強いものである。しかし、ズーラシアはそういう感覚で行くと、とても驚かされることの連続で、「動物園」というより、まさに「動物の王国」(注：この場合、人間にとつての王国ではなく、動物にとつての王国である。)というカンジ

である。

そこでは、単なる「動物」ではなく、私達人間と同じ「地球上の生き物」が、それぞれの生活習慣に合った環境で生活していた。そして私達は彼らが築いているその王国に、観光客という立場で親交を深めさせてもらいに行くといった感覚にさえなった。

彼らはそこで、普通に生活しているのだから当然見つけにくい。決して隠れているのではなく、それがナチュラルな姿だからである。

しかし、その日はとても暑く、汗はむ陽気だった為、風通しの良いところに出ている動物達が多かったため、幸い、殆どの動物達の姿や行動を拝見させてもらうことが出来た。中でも特に、編集委員達の心を強く掴んでしまった動物達の話をしようと思う。

まず、入園ゲートをくぐってすぐのエリア「アジアの熱帯雨林」では、「インドゾウ」がお出迎えしてくれた。ちよūd水浴びの最中で、普段なかなか見ることの出来ない光景を見ることが

が出来た。このインドゾウ達には医学治療をする際の訓練として、一日数時間は鎖に繋がれておとなしくするトレーニングが行われている。その成果もあって、何事もなくスムーズに水浴びが出来ていた。当の本人（本物？）達も、気持ちよさそうに水浴びをしていた。なんだかとても平和な光景だった。

次に進んだ「亜寒帯の森」エリアでは、ちょうどその日の午後、お見合いを控えていた「ホッキョクグマ」に大歓迎を受けた。「ホッキョクグマ」は水中からも、地上からも見ることが出来るのだが、その日は水中を優雅に泳いでくれた。そして、沢山の「観光客」が見つめるガラスの壁にゆっくりと近づいてきてくれたのだ。あんなに近くで、ホッキョクグマを見たのも始めてのことだったが、さらに、泳ぐ姿を拝見できるなんてホントに一同感激のあらしであった。思わず、「オオっっ!!」という歓声がなんども湧き起こった。大人が大騒ぎするものだから、子供たちはお父さんの肩車を必死にせがんで

一生懸命ホッキョクグマを見つめていた。

その後、オセアニアの草原を経て、中央アジアの高地へやって来た私達は、その日、一番のお目当てだった「オカビ」のところに足早に進んでいった。「オカビ」は日本の動物園ではココ、ズーラシアにしかないというだけあって、最も人だかりが出来ているエリアだった。

そこで、ちょっと面白い光景を目にした。オカビはもともと恥ずかしがり屋で、奥の方の木々に隠れていることが多い。その日も、木々に紛れてお食事中であった。しかし、私達「観光客」はなんとしても彼らの姿をカメラに収めたい。でも、一体どうすればコチラに出て来てくれるのかは誰にも分からない。巨大な望遠レンズ付きカメラで必死にピントを合わせる人。只ひたすらビデオを回し続けている人（この際、果てしなく撮り続けている。子供そっちのけで：。）大人達は様々な方法で「オカビ」を記録に残そうとしていた。



が、そんな中、子供たちは大きな声で「呼んでみればいいんじゃない？」と叫んでいた。オーカービーイっ!!」と叫んでいた。それを見て、なんだか微笑ましくなった。「オカビ」は「生物名」であって、「名前」ではない。しかも、そう呼ばれたところで振り返ってトコトコ近づいてきてくれるわけでもない。でも、「オカビ」と叫んでしまう子供たちに、なんだか日本の明るい未来さえ見えてしまった気がした。一緒になって「オ

ーカービーイっ!!」なんて呼んでいる若いお父さんやお母さんを見て、羨ましいくらいに幸せな家族なんだと思っ

しまった。

「オカピ」で大興奮した後は、「日本の山里」エリアにすすんだ。このエリアに関わらず、全ての動物においてもそうであるが、彼らはそれぞれが各々に合った自然な環境で生活している為、ただ、彼らの姿を観察するだけでなく、どのような環境で生活しているのかも学ぶことが出来る。

「ニホンザル」もまた、他の動物園の「サル」達が羨ましがするような環境で生活していた。それにしても、なぜ、何処へ行っても「サル」のところには人が集まるのだろうか？　そして、なぜ、ずっと見ているもあきないのだろうか？　わたしもかなり長い時間「サル」達をじっと見ている間に考えた。おそらく、人間に限りなく近い生き物だからである。当然行動も人間っぽい。(人間が「サル」っぽいのもかもしれない...)だから、面白おかしく動き回る彼ら「サル」のなかに、自分や、周りの人々を当てはめたりして見ていると非常に楽しい。ケンカしているサ



ル同士を見ていると、「きっと、この次、こっちのサルはこうするな」などと、ついつい予測を立ててみたりする。そしてそれが当たったりするとまた更に面白さが増す。そうしているうちに時間がドンドンすぎていくのだろう。特に、子ザルの行動が、人間の子供に非常に類似している。母親にびったりくっついて離れない子ザル、少し年上のサルの後を必死について行ってマネをしている子ザル、けんかをしたり、ものを

を取り合ったり、じゃれ合ったり…。まさに近所の公園で見える光景ばかりである…。あまり夢中で見ていたので、

「ニホンザル」たちの写真を撮ること忘れてしまった……。

そんな「ニホンザル」に後ろ髪を引かれながら、いよいよ最後のエリア「アマゾンの密林」へとやって来た。ここでの主役はなんといっても、「オオアライクイ」である。

つい最近赤ちゃんが産まれたばかりで、人だかりも多かった。さて、ここで問題。「オオアライクイ」の赤ちゃんはお母さんにどんな風にくっついていと思うだろうか？　象や、馬のようにお母さんの後を必死に追いかけていると思う人の方が多いかもしれない。しかし、正解は「お母さんの背中に乗っかっている」である。どちらかというと、「しがみついている」といった方が適切かもしれない。どう考えても、自分の足で立った方が楽だと思われるのに、必死にへばりついている姿を見ると、なんだか、「母と子の絆」を感じずにはいられなかった。人間の赤ちゃんも、母親の心臓の鼓動を聞いていると安心するという話しを

聞いたことがある。だから抱っこされたりおんぶされていると安心するし、そうして欲しいと自分からアピールする。動物もまた同じで、そうして少しでもお母さんにくっついておきと安心するのだろうか…。母は偉大なり…。

ズーラシアを訪れて感じたことは、「飛び出す図鑑のような動物園」だなということである。その動物にも、それぞれに一番適した環境や、生活のリズムというものがある。それが良く分かるようになってきているのだ。同じ「トラ」でも、「スマートトラ」は熱帯雨林に生息するトラなので、草木が青々と茂った環境で生活しており、「アムールトラ」は亜寒帯に生息するトラなので、どちらかというところ、岩場のような環境で生活している。ただ、「檻」の中に居るだけのトラを見ただけでは、分からないことである。

そして、身近に「生活している動物達」を見ることで、そこから「生き物の命」というものを強く感じた。特に今回は「ベビーラッシュ」だったせい

か、「母と子」という自分にとっても大切な絆を学ぶことができた。今、私は「子」という立場で「母と子の絆」を感じている。しかし、これから近い将来（遠いかもわからないが…）「母」という立場でこの絆を感じる日が来るのだ。なんだか、男性には申し訳ないが、「女性」としてこの世に生まれてきたことを幸せに思った。

どれも家でただの「図鑑」を開いているだけでは学ぶことはできない。実際に目で見て、耳で聞いて、心の中で考えて、思っ、そして感じる事ができるものだと思う。

私事で恐縮だが、昨年の十一月に十二年間飼っていた愛犬がこの世を去った。欲しくて欲しくて、両親に泣きながら頼んでやっと飼うことが許可された犬だった。彼女は雑種だったが、とても賢かった。居なくなってしまうから、いろいろ考えた。彼女は本来犬に適している環境で生活できていたのだろうか？そして、幸せだったのだろうか？そう、私たちと生活できて幸せ

だったのだろうかということ。私は幸せだった。彼女は私にいろんなことをしてくれ、教えてくれた。その中で、最も大きな課題は「命の尊さ」である。彼女は、それを十二年間かけて私に教えてくれたのである。

子供の頃に動物を飼うこと、動物を身近に感じることは、とても大切なことだと思う。そして、彼らから学ぶことは、大人が口で説明して、子供たちに教えることは決してできないことである。「ズーラシア」の住人（住物？）達は、それを十分学ばせてくれる。

本文を読んで下さったお母さん方、どうか、あなたの素敵なお子さん達を





あっ!! オカビだ

連れて、「ズーラシア」を訪れてみて下さい。きっと、素晴らしいことが学べると思うのです。お子さん達と一緒にいろんなことを感じて、学んで、「絆」をもっと深めて下さい。そして未来がいっぱい詰まっている彼らをステキな「人」に育てて下さい。
私もいつか、未来の自分の家族と一緒に、またこんな五月晴の日に再び「ズーラシア」を訪れてみたいと思う。その頃にはきっと、東京ドーム十二個分の「ズーラシア」が完成していることだろう。

母校ニュース

▽吉田博学长再任

平成八年九月から平成十二年八月末日までの四年間の任期が満了した吉田博学长は、同年九月一日から引き続き学長として再任されました。再任の間は二年間です。

▽関東学院聖歌隊結成される

毎年十二月に開催される『関東学院クリスマス』に向け、全関東学院の関係者（児童、生徒、学生、保護者、卒業生、教職員等）で構成された聖歌隊が結成されました。

希望者を募ったところ、七月の時点で六〇名程度の希望者があり、それぞれのパートで練習を開始しています。練習は主に短期大学で行われています。

関東学院クリスマスは十二月十九日

(火) 横浜みなとみらい大ホールで開催され、曲目はメサイアの中からいくつか選ばれているようです。

どなたでも入場できますのでどうぞ

ご参加ください。

詳細及びお問い合わせは香葉会事務室までどうぞ。(〇四五―七八七―七八五九)

▽香葉会からの奨学金充実へ

近年社会情勢の悪化から経済的に困窮する家庭が増加し、志半ばにして退学を余儀なくされる学生が目立っています。

香葉会幹事会及び年度委員会でもこの話題が出ておりましたが、本年五月の香葉会年度委員会でさらなる支援をと決議され、会員の総意として香葉会奨学金基金から短期大学へ二〇〇万円を贈呈いたしました。

なお、香葉会といたしましたはこれまでと同様、留学生への支援も引き続き行ってまいります。

またこの寄付金は用途を奨学金と限定して寄付しております。

会員の皆様のお気持ちに学長から感謝の意が表されました。



ハンソン山から

今回は先生方の素顔と本音に迫るアンケートをとらせて戴きました。
お楽しみ下さい。

1. もし先生にならなかつたら、今何をなさっていたと思いますか。
2. 20歳の時、どんなことを頑張っていたらいいと思いますか。
3. 今の短大生を御覧になって、どう思われますか。
4. 卒業生に一言お願いいたします。



英 文 科

加藤 紀子先生

1. 高校生の頃は、生物や物理をとるコースに所属して、医者になりたいと思っていたので、英文学を専攻していただければ無医村で医者として働いていたかもしれません。



国 文 科

岸 正尚先生

1. 中学時代の夢は外国航路(家畜運搬船)の船医(獣医)でした

2. 希望しない大学に入学して、初めは挫折感に悩まされていたが、英詩の面白さを学んだり、学科の特待生になったりしたので、大学院への道を考え始め真面目に勉強していました。
3. 女性が多様な生き方をする事が出来る時代になった為か、益々学生は多様化していると思う。勉学に対する態度も、生きる姿勢も、価値観も様々であり、時代に流されている学生もいれば、目標に向かって真剣に努力している学生もいます。
4. 命を燃やして、いきいきと充実した人生をすごして下さい。
自分の人生を大切にして、日々前向きに生きていけば、いつかきつと夢はかなえられると思う。又、他の人への「優しさ」と、困難に立ち向かう「強さ」を兼ね具えた女性になって下さい。

が、実際はたぶん今と似た文化方面、それも映像関係の仕事についていたと思います。

2. 高校の教員をしながら、暇をみつければ、上代関係の本を読んでいました。

3. もっと自分を大切にして、打ち込めるものを見つけたい。

4. よい読み手になりましたか。



家政科

和田 淑子先生

1. 興味をもっている分野の研究ができ、その成果が教育に生かせればと思っていますから、その意味では願いがなかったということかも知れません。もし、この仕事を得られなかったら、専業主婦の道を歩んでいたのかも知れません。

2. 学生生活を謳歌していました。親元を離れてのはじめの寮生活、大学の講義も実験・実習も、日常の生活も友人との旅行も、すべてが自由で、楽しく、よき青春時代でした。

3. もう少し積極性を発揮して欲しいと思います。また、

時代の感覚が違うせいでしょうか、服装やお化粧など流行についていけないと思うことがありますね。

4. 人生は楽しいことばかりではありません。月並みな言葉かも知れませんが、どんな境遇にあっても自分というものを見失わず、前向きに生きてほしいと思います。



経営情報科

金子 義幸先生

1. 子供のときから、プロのサッカー選手になりたいと思っています。ですから、もしかしたら、イギリスで大活躍していたかも知れません。今では選手というわけにはいきませんので、監督？

2. サッカーといたいところですが、運悪く近視が強くなり、まして、メガネなしでは不便です。メガネをかけてサッカーはできませんので、大学生になりました。ところが、大学は大荒れで、勉強どころではありませんでした。でも「将来の日本」をめぐる、いろいろと議論したり、本を読んだりしていました。

3. 短大生のみならず、今の大学生全体に言えることで

すが、一人一人の主張や意思を余り伝えていないのではないのでしょうか。例えばそれは服装や身なりが個性的でないことにも表われています。

4・卒業生のみなさんは、本学でさまざまな経験をされたでしょうが、そうしたことから、本学で学んだことが、これからも人生の指針となるものであってほしいと思います。



共通科目

大越 公平先生

1・博物館の学芸員で
しょうか。でも、無理
だったかな。フィール

ドワークに出でしまい、確か博物館課程の科目で履修して
いない科目が少し残っていたと思います。

2・文化人類学を専攻し、奥秩父でフィールドワークを始めた
ところが二十歳のころです。コンニャク栽培の農家に泊めてもらい、暮らしぶりを聞き書きすることを学びました。長期の休暇は必ずといっていいほど出掛け
た懐かしい思い出です。

3・一人一人が授業に積極的に取り組んでほしいということ
でしょうか。講義を聴いてコメントしたいと思っ

たときに自発的なレポートを提出してもらおうように
しました。メールの送受信も増えました。

4・講義の最後にお話したことを今でも覚えていてくれる
のでしょうか。「みなさんが経験する通過儀礼（結婚式等々）に、少しでも私の講義を思い出し、考えてくれたときこそ、評価は「優」といえます」と話しました。私ではなく、講義を思い出してください。自分で
納得のいく人生を歩まれますように。



幼児教育科

小室 康平先生

1・県立の児童相談所
に勤めているかも……。

最近騒がれている「児童虐待」の現場最前線で、懸命になっているか、或いは
お手上げ状態か……。とにかく大変ですね。

2・大学に行っていました。そんな中でも、恋愛と失恋に心を
奪われていました(?)。

3・若いですね。

4・短大(幼児教育科)に、たまには便りを下さい。



経営情報科

井口 伸先生

1. 大学4年生の春に
恩師の推薦で第一銀行
(現在の第一勧業銀行)

に就職が内定していましたが、身体を壊したため恩師の勧めにより大学院に進学し教員になったので、教員にならなければ今は銀行員になっていたと思います。

2. 20歳の時は、クラブ活動(経済研究会)でインターの発表に備えたグループ研究と、日本商工会議所の簿記検定試験のための勉強などに頑張っていました。

3. 個性的であろうとしているのでしようが、他人と同じ行動パターンで没個性的になっていると思います。もう少し自分に自信をもつことが必要だと思っています。

4. これからのネットワーク社会では創造性が要求されると言われていますが、
「無」から「有」は生まれません。創造性は、高い教養と絶え間ない学習によって培われることを肝に銘じてください。



ハンソン山特別寄稿

関東学院での三十九年間の勤めを終え、二〇〇〇年三月に定年を迎えられた幼児教育科の中田弘良先生から現在の心境などをお寄せいただきました。



雑感

幼児教育科

中田弘良先生

紫陽花、銀杏、大島桜、オリブ、楠、グレープフルー
ツ、黒松、樟、山茶花、里桜、染井吉野、椿、常盤
山査子、南天、錦木、質アカシア、
合歓木、柃、ヒマラヤ杉、馬刀葉椎、糯の木、樅、山桜
などざっと25種類ほどの木があった。他に名称のわから
ない木も数本あったが、これは関東学院女子短期大学の
校地内に生えている樹木である。

短大幼児教育科の専任教員として22年間勤め上げて、

今年の3月に定年を迎え、授業以外は諸会議等にも出席しなくてもよくなり時間的に余裕が出来たので、学内を散歩して見て驚いた。それまでは、桜、櫻、躑躅アカシアくらいしか記憶に無かったので、学内にこれほど多くの種類の樹木があったのかと、改めて随分長い間、心にとりのない日々を送って来たものだと言えながら反省している。

短期大学はもとも4大の六浦キャンパス内にあり、昭和40年代には大学紛争のおおききを受けて、しばしば授業ができないことがあった。当時の学長であられた林淳三先生が短期大学に幼児教育科を新設することを考えられ、それを機に4大の六浦キャンパス内からハンソン山の跡地へ移転することになった。幼児教育科は、昭和48年度からスタートしたが、新校地には「白つめくさ」が一面に生えており、端のほうに体育館と幼児教育科の3号館だけという淋しいものであった。当初の授業も学科によっては、新校地と4大の六浦キャンパス内校舎へと行き来して行なっていたようである。

昭和53年度から校舎も整い、全科（当時は英文科、国文科、家政科、幼児教育科の4科）がまとまってハンソン山跡の新校地で授業を始めることが出来た。小生もこの年度から4大（昭和36年度に奉職）より短大幼児教育科へ移籍したのである。

短大専任教員としての22年間を顧みると、小生は本当

に果報者だった。特に野心というものは無かったが成すべき事と与えられた仕事は、とにかく一生懸命やって来たつもりである。その結果、不思議なことに色々な仕事が続々と向かって来るのである。短大30年記念誌の編集、短大付属幼稚園主事、幼児教育科の仕事、学生生活部の仕事、学院の評議委員と多種多様に幅広く、しかも楽しく働くことができた。多くの反省点はあるものの、大過なく定年を迎えられたのは、健康な身体と多くの方々の支えのお陰と深く感謝している。ただ、長い教員生活の中で自分なりに心に決めて実行して来たことが、担当する学生の名前を全員覚えること（卒業すると忘れたが）、「駄目」という言葉は使わないこと、上手にできなくても楽しく身体を動かすように指導すること、であった。アツという間の22年間（4大を含めると39年間）で、学生に魅力ある講義をすることは出来なかったが、一生懸命さだけは自慢できるのではないかと、自負している。

これからの人生を、今まで与えていただいた恩恵を大切な宝として、学生のためと、今まで殆どしてこなかった家庭サービースに励もうと思っている。



講演会要約

毎年短大祭時に香葉会主催で行っている講演会も十五回を数え、一九九九年度はよこはま動物園ズーラシア園長増井光子先生から貴重なお話を頂きました。

「動物を育てる」

講演者 増井光子

四〇年動物園で過ごしてきましたが、動物園の有様ありさまが変わりました。遊園地の一つのように珍しい動物を集めて展示していましたが、環境破壊が進み野生地から集める事は禁止となり、自然保護や動物保護は理論ではなく、動物を通して地球の生物層、生態系の在り方を一般



の方に啓蒙する事が目的となつた。動物を育てる事は、人の子育てと共通するところもある。愛情を持って育てる事。その愛情

が自分の思い込みか、相手を思っているのかが難しい。経済動物や伴侶動物以外の動物達は、自意識が強い。動物達には動物の考えがあり、客は関係のない人だが、飼育係は入って欲しくない自分のテリトリーに入ってくる。野生動物はその動物だけの社会を作るが、動物園の動物は、人を組みこんで社会を作る。飼育係は必ず関わりを持ち、その中で動物達を一人前に育てていく。動物には自分に敵意を持っているとか、無関心だとかがすぐわかるので、動物好きが条件だが、気持ちの上で自由さを与えないといけない。又、友達関係では、押さえが効かない。

動物園には、人工保育の仕事が多くある。環境が悪い、親が子供を育てる事を学習していない、子供が弱い、親から子供を離さなければならぬ等のケースである。気をつけなければいけないのは、深く関わりを持っては持つ程度でられた子供が、人間なのか動物なのか迷う。愛情を持って育てればライオンはライオンになるというのではないと気が付き人工保育の在り方を考えることになりました。

オットセイ等海獣類のミルクは特殊で、脂肪分が多く三〇%、アザラシは四〇〜五〇%必要、普通の牛乳は水のようなもので、最近やっと海獣用ミルクが開発されました。パンダの場合は、母親が一〇〇kg、子供は一〇〇g、双子を産むことも多く、一頭しか育てないのでもう一頭を入れ替えて育てる方法をとっていたが、飼育技術

の発達で育てる事が出来る様になった。皮膚はピンクがかった灰色で、生まれて一週間位から白黒の毛が生えてくる。丹頂鶴は親の頭の赤いのがポイントで、その動きを見て餌を食べる事を覚える。これを利用して餌を取り替えて上に吊してある赤鉛筆を動かす。カリフォルニアコンドルは、手袋の先に模型の嘴をつけ餌をやる。人間が直接顔を見せるよりは良い。オオアリクイは、生まれるとすぐ親の背中におぶってもらい、ピツタリとついて育つ。キリンは、生まれて二〇分位で立ち上がる。親に任せるのが一番で、安産の為には、運動し足腰を鍛えておく事が必要。イノシシは、一度に沢山五〇〇g位の小さな子を産む。マクワウリの様な模様があるので瓜坊と呼ばれるが、成長に連れ四ヵ月位で模様が無くなる。授乳の際は飲む位置が決まっています無駄な喧嘩をしない。チンパンジーは、親、兄弟、同年齢の子供、仲間、先輩のあらゆるものを見習う。一〇年で親離れ、十五歳で一人前、三〇歳過ぎると壮年期、長命は五〇年位、寿命の長い動物が平和で安全な動物園で暮らしていくには、仲間との関わりあいが大切で、皆と一緒に何かやると良い。その道具（人工蟻喰い、知恵の木、ナッツ割、打出の小槌等）も工夫されている。強い者が威張っている世界ではなくちゃんと頼んで頼まれた方もそれに応える。

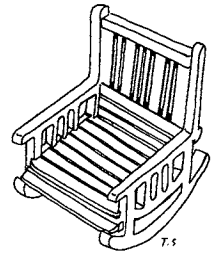
TVを初めて見た時、TVの前に殺到した。毎日映ししていると散らばって皆が見えるようになった。チンパン

ジーが出ている映像が大好きで、飼育係の顔も他の動物園へ行った仲間も覚えている。健康な親は、三年〜五年間隔で子供を産む。母親は積極的に子供に子守をさせる。親子の間が密着し過ぎて生きる力を失くした例もある。母親は、自分の子だけ可愛いという感じだが、雄の場合集団にいるどの子も可愛がる。何があっても自分だけ可愛がってくれる存在は必要。これが雌雄の違いかと思う。日本鹿は母系集団で雌は、母、娘、孫と直列で子育てをし、雄の子供は雄の集団へ行く。

人と動物の関わりを見ると、インド象は現役で働いているが、働いている親の姿を見て育った子供は作業の飲みこみがはやいので、働く時は一緒に連れて行く。育てる時大きくなってして欲しくない事は、小さい時からその癖をつけないようにする。動物園の場合獣医が治療をする為の工夫とも関連している。アザラシに赤いデッキブラシに鼻をつけてじっとしていると魚がもらえるよう訓練する。象は爪の工合が悪いと立てなくなる。子供のうちから鎖で繋いでいる事に慣れておくと大人になって鎖で繋ぐ必要がなくなる。

動物は賢く、冷静に状況を分析し先を読む。動物を育てるとは、擬人的に可愛がる事ではなく、動物は動物達から学ぶという事を心得て、その動物本来の行動が発揮できる状況や環境を作り出していく事だと思います。

香葉室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の講演会の出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛て、次号への原稿などお送りいただければ幸いです。

田牧（津野）洋子さんのこと

昭和二十五年初めて逢って以来五年に亘り、親しく支えあってきた友、洋子さんが天に召されて一年になります。英語力のある個性的な人が多かった同級生の中でも、何をやってもリダー格のとび抜けた才女でした。ピアノが上手で、安藤先生指導のコーラスでは、よく伴奏をしていました。卒業後、アメリカへ留学してパイプオルガン演奏や教育学を学び、結婚後は英語学校を作って英語会話の指導にその才能を発揮していました。私が同窓会を手伝うようになってからは、いつも応援してくれて、愚痴の聞き役になってくれたり、励まし、慰め、良い意見を云ってくれて、時々、しぼんでしまう私を力づけてくれました。ここ数年体調が優れず、余り遠出することができませんでしたが、私が東京へ出る時は、出て来て話を聞いてくれました。どうやら元氣になりそうだと喜んでいました。それに、胃癌の手術を受け、退院後は

主治医も驚く程の生命力で約一年ご自宅で優しいご主人と二人のお嬢様の介護を受け、最後はご自分の意志でホスピスに入り二週間で遂に力つきました。思い残すことはないけれど、もう一度桜が見たいと云った願いはかないませんでした。が、威厳のある態度で、あるがままを受け入れ、死を畏れず、いつも明るく、私のことを氣遣って、お見舞から帰る私の背に「房子ちゃん頑張れ」と大きな声をかけてくれたことが忘れられません。私が死に直面した時、こんな風にできるかしら、いや、この様にありたいと厳肅な気持ちになりました。学生時代に受洗され、「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(ヨハネ11・25)という信仰に生きた証をみました。この世で逢うことはできませんが、私の傍に生きている、見守っていてくれる、という思いが、辛い私の気持ちを支えてくれています。

(英1 古城 房子)

昨年十二月で仕事を退職し、市立図書館へ毎日通い、念願の管理栄養士の資格を取得することができました。不況でなかなか仕事をみつけれませんでした。でしたが運良く十一月に新設される市内の老人デイ・ケア・サービスの管理栄養士に採用され、「まだまだこれからも沢山勉強しなければ」とはりきっています。学生の時にはあまり感じませんでした。自分が興味のある事について勉強できる環境に居ること、とても幸せに思っています。

(家41 盛田 道子)

夫の両親の介護のために同居、毎日自分との戦いです。まずは自分が心身共に健康でなければ良い介護は出来ない事を学びました。いつもやさしい心で接する為にも自分にストレスをためない事が一番だと思えます。感謝の心を大切にしています。

(英15 齊藤 昌美)

実家から香葉のNo28を送ってもらい、

初めて田中順子寮さんがご退職した事を知りました。私も六年前ルツ寮で田中寮母さんには、色々とお世話になりました。思い出深く残っているのは、病気をした時に作って頂いた「おかゆ」私も二度程ごちそうになりました。特に二度目に頂いた時は就職活動に行きづまり、ごはんが食べられなくなる程落ちこんだそんな時、田中寮母さんに作ってもらった「おかゆ」の味は今だに忘れられない程心に残っております。今私は結婚して子育てに追われる日々ですが、退職されてもいつ迄もお元気でいて下さい。

(家8 松橋 暁子)

「香葉」が届くと秋が来たのを一番感じます。この春から昔働いていた保育園にパートで週二日行って居ります。教え子が働いていたり、実習に来たり……トシを重ねたものだと思います。温かく見守って接しています。保育原理の新しい本を読み、古くならない保育士になるべく努力したりもして、又、オバサ

ンとしての潤滑油的立場も忘れずに自分なりに頑張っています。趣味もちょこちよこの日々です。

(幼5 木暮 周美)

十月初旬に北海道室蘭より主人の転勤で仙台に移りました。知人のいない土地で「香葉」が郵送されてきて少し安心しました。これからも良い同窓会誌でいて下さい。編集の皆さん頑張ってください。

(英30 菅野 浩子)

短大を卒業して十六年がたち、子供も五才。学生の時の友達は、遠く離れているものの、今もかわらず一生続く友達として仲良くしています。久しぶりに子供づれで会えるのを楽しみに、時に手紙を出したり電話をしたり。学生時代を思い出したり……です。

(幼10 横山 淑)

今年四月より主人の転勤にて広島に住んでおります。先日、当時所属して

いたハイキング部四十周年記念式典に出席し、なつかしい仲間と会え、楽しかったです。聞くところによると短大ハイキング部は部員0名で休部中とのこと。来年は新入部員を迎え、復活してほしいです。私は娘(五才)・息子(二才)と主人とで元気にしています。

(幼14 大橋 真美)

卒業して十余年三人の子供の母として、髪をふりみだし育児の毎日。年一度の「香葉」で楽しきあの頃を思い出します。吉田学長が、吉田先生、であられた頃「キノコは毒キノコを覚えておけばいい」というお話、いまも心に残っております。お体大切になさって下さい。

(家36 杉山 華恵)

関西へ来て五年。芦屋へ移って三年経ちました。ちょうど一年ほど前、風邪がみだった六才と四才の子供を近くの耳鼻科へ自転車で連れて行ったら、駐輪場で偶然クラスメートだった友人

を見かけました。彼女も六才と三才の子供を連れて来ていました。卒業以来一度も会った事のない彼女も結婚して出産してご主人の転勤で関西(芦屋)に来たそうです。世間は狭いですね。

(家35 三留 公重)

結婚し、愛知へ移りました。学校内の情報を知りたくも、全くできなくなりました。会報など、情報パンフがあるでしょうか。同窓会(クラスのもの)も知りませんので淋しいです。香葉、をなつかしく拝見しました。これから頑張ってください。

(家32 高橋 仁美)

担任だった岩佐先生のサントリー文芸賞の事が、とてもうれしかったです。ぜひ、作品をさがして読んでみます。

(国20 外間 由美子)



—— 映画研究部出身の皆様へ ——

左記の日程で映画研究部OG総会を開催する予定です。全国に散ったOG諸姉、数十年ぶりに再会致しましょう。

記

日時

十一月十八日(土) 午後二時

当日は大学祭開催中です。

場所

映研主催 映画会会場

(四大構内)

会費

壹千円(懇親会を別途予定)

出欠等、問合せにつきましては左記迄お願いいたします。尚名簿作成中につき、卒年度・学科・氏名(旧姓)・住所・勤務先・近況等至急御連絡下さい。

千葉県柏市桜台九の二十八

経49卒 佐藤 光範

〇四七一―六四一―四〇一

クラス会報告

めだかの会

卒業二十五周年目のめだかの会を、横浜中華街のホテル「エクセレントコート」で行った。受付で出席者を確認すると、意外に少なく十名のことだった。

岡松先生をお招きして同窓会は始まり、先生は現在の短大の様子や当時の先生方の近況を細かく教えて下さった。先生ご自身も定年後、ずっとそのまま短大で講義なさっていらっしやるとのことだった。ただ近年、文字を忘れて困るとおっしゃり、毎日辞書を引いているとも伺った。ふだんの私はパソコンの変換機能に頼りきって、辞書を見たことがない。「忘れちゃった」、「なんだっけ」と言って画面を見て終わり。辞書が積読状態になっている。先生はさすがプロでいらした。心意気が感じられた。人生八十年余りと言われて久しいが、生涯現役で生きるには、それなりの覚悟と心意気が必要だと教えら

れたように思う。

その後、出席者はそれぞれに近況を話した。早くに結婚し、子育ても終わり趣味に邁進しているKさん、今は育児に追われているNさん、高校生のお嬢さんの話をして下さったYさん等、話は尽きることがない。なかでも、今回はなつかしい出合いがあった。それは卒業以来という末永裕子(旧姓平山)さんだった。遠く青森から駆けつけてくださった。めだかの会があればこそこの再会であった。

あつという間に二時間半が過ぎて、二年後にまた会いましょう」と約束して夕暮れの横浜を後にした。

(国7 池谷和佐子)

英文科二部合同クラス会

一九九九年九月二十五日(土)、下旬なのに三〇度を越す暑さの中ハンカチ片手に汗を拭きつつ君津市、八王子市、更には神戸市から我々神奈川在住組と合流し、総勢十一名の第二部一回から第六回までの卒業生が合同で七回

目のクラス会を開催致しました。今回は上市さんのご推薦で横浜中華街の永華楼で一年振りの再会を喜び合いました。新クラス会幹事の青木昭次郎さんが言われる様に我々の年齢になると一年一年が非常に大切なものと痛切に感じております。だからこそ毎年元気に共に学んだ仲間達が語り合える事は素晴らしい事だと思えます。今年は上市さんのお誘いで新しく成瀬節子さん(第五回卒)が参加され、関東学院時



代のご苦勞話や、今は亡き小瀧先生の懐かしい授業のお話をされたり、上市さんは三春台時代に運転免許を取得し宣

教師のドライバーをしていたお陰で戦争中近衛師団に入隊してからもその経験が役に立ち大変楽な軍隊生活をされたと言う面白い話等興味深く拝聴しました。我々の中には米国留学後外資系企業に勤務し、今も教会のリーダーとして活躍している者、或る者は横浜大空襲の悲惨さに悔し涙を流し、終戦後勉学に励み運輸省に入省し永年航空行政に携わった者、日本の航空会社に勤務した者、アメリカ銀行を退職し現在も外資系企業に席を置く者、マンション経営者、自治会長経験者、海上自衛艦関係で貴重な技術者等々、終戦後の混乱期から関東学院で学べた事を誇りに思い且又我々が今日まで頑張ってきた事もお陰と感謝致して居ります。七回目のクラス会も二次会で更にエンジョイしながら閉会しましたが、来年度は高橋茂彦さん（第五回卒）とその仲間達のネットワークもあり、かなりの数の方々が第二部全体のクラス会を希望しているとかの情報も入り、今年以上に盛大な会が催されるのでは

ないかと期待致して居ります。幹事・青木・小林・竹内

（英Ⅱ 中村武雄）

オリーブの会

月日のたつのは早いもので卒業して三十七年目の平成十一年十一月十四日



（日）品川プリンホテル新館三十八階にて、オリーブの会が開催され十八名の美女達が集まりました。平成に入ってから、ひんぱんにチャンネルを与え

られ今年で九回！鳥越先生は、残念ながら御欠席でしたが、電話の向こうでお声から拝察するとお元気そのもので一安心と言ったところです。

日本料理に、舌つづみを打ちながら改めての自己紹介、中には初参加の方もいて、はじめまして！のこぼにビックリの場面もあった次第。子供さんが結婚された方、夫を失った方あり。ずっとミスを通していられる方等（うらやましい限りです）人それぞれ歩みは違っても皆前向きに生きている事は同じ。関学の短大で学ばせて頂いた喜びをかみしめているのは私ばかりではないと思います。次回は平成十二年、秋の予定です。堤（清水）、織田（重田）さん仲良しコンビの幹事さん、よろしく！最後にこの場をお借りして、日頃から御尽力頂いている香葉会の丹野、松井両事務局さんに感謝の意を表わします。

（家12 狩野佳子）

英文科第三回卒クラス会

平成十一年十一月二十八日(日)横浜のホテルリッチの六階桂川で十二時半より門根先生にご出席いただき昭和二十九年短大英文科卒第三回生A組の八人で参加しクラス会を開催しました。

大変お元氣でお若くていらっしやいます門根先生を囲みなつかしく皆様といろいろとお話をしている内に四十五年前にタイムスリップして短大時代にまでどり、三春台での学生生活、柳生先生、小滝先生、



兵藤先生、光畑先生方のお顔が走馬燈のように思い出されて胸が熱くなるのを覚えました。

お互いにつまでも名残り惜しく楽しいひと時を過ごすことが出

来しました。又十分な時間を過ごさせてくださった桂川の店長さんの御好意に感謝しつつ来年の再会(桂川で平成十一年十一月二十六日(日)十二時半頃)を約束して会の幕を閉じました。

(英3 望月純子)

幼教十四回卒のクラス会

平成十一年十一月二十八日(日)短大にて幼教十四期A組のクラス会を、中田先生・丸山先生を囲んで行いました。運動会や七五三を避けた日程が幸いしたのか、十六名が、元氣な子どもたちとともに集うことができました。先生方や友達との久しぶりの再会に、私たちは大はしゃぎ。子どもたちも、初めてお会いした先生方から、パンダの折り紙や紙工作を教わり、楽しんでたようでした。

近況報告では、短大卒業後から現在までの色々な話を聞くことができました。保育関係の仕事が続いている人、転職をした人、卒業後に取得した資格を活かして仕事をしている人、子育て



中の人。卒業後、十二年間の間には、それぞれが色々な変化を経験してきているように思います。そんな中、二年間たくさんの授業を受けた、短大で、少し大人の顔で再会できたことをとてもうれ

しく思います。残念ながら、今回欠席の方にも、次回お会いできることを楽しみにしております。最後になりましたが、お忙しい中、大切な日曜日にご出席くださいました、中田先生・丸山先生に、心から感謝を申し上げます。(幼14 佐藤智子)

わつき会

二〇〇〇年度「さつき会」は威容を誇る国際競技場を隣に見て、発展しつつある新横浜の様子を眺望出来るレストラン「こころ」で催され、十六名が出席致しました。「さつき会」が誕生



して以来の皆勤の方、又は三年に一度今年は七年振りの参加という人さまざまでしたが、一同逢えば懐かしさで、明るく広い室内にはたちまち談笑のさざめきが広がります。飾り気の無い旧友との会合は年々楽しさを増していくようで、年をとって行くことの良さを実感致しまし

た。会食の後、クイズをしたり、髪に花を飾ってフラダンスの手ほどきを受け音楽に乗ってしばし楽しみました。皆さんからの生活の最新情報や貴重な体験談を聞くのも、いつもながらたのしいものです。それぞれに確かなライフワークをお持ちの様でした。近況報告も終わりの頃私達は長い間生活を共にして来られた元広さんの最愛のお姉様が天国に召されたことを知りました。一瞬皆それぞれ静かに瞑目されていたように感じました。その後は、情感豊かに格調高く、ハワイアンダンスを披露してくださった松本(宏)さんの勇氣に大いに拍手をおくっているうちに、気が付けばもうお別れの時が来ていました。影山さんに記念写真を撮って頂き、賑やかに再会を約しつつ四時半頃会場を後に致しました。

(英2佐野妙子)



編集後記

今回二人の新人を迎えて、総勢十一人、夏の暑さに負けないパワーで毎回楽しく編集を行うことができました。二〇〇〇年ならではの企画・取材を盛り込んだ、ミレニアムにふさわしい一冊に仕上がったと思います。

「香葉」が皆さんのお手元に届いた時、それぞれの学生時代を思い出したり、今までの関東学院女子短期大学のことを知って頂ければ嬉しいです。



〔香葉〕第29号編集委員)

小濱朝子・吉屋保子・織田明美
村岡愛子・山口佳子・岡崎敬子
川上智子・坂東奈苗・浦上 恵
谷田部直子・吉田美佳

平成 11 年度 決算				平成12年度予算
収入の部	予算	決算	増減	予算
会費	(@18,000×956名) 17,208,000	17,208,000	0	(@18,000×932名) 16,776,000
賛助金	500,000	795,000	△ 295,000	500,000
預金利息	3,000	3,213	△ 213	3,000
雑収入	5,000	144,080	△ 139,080	5,000
前年度繰越金	2,258,540	2,258,540	0	1,948,443
合計	19,974,540	20,408,833	△ 434,293	19,232,443

支出の部	予算	決算	増減	予算
通信費	3,200,000	2,893,024	306,976	3,300,000
印刷・製本費	2,000,000	1,706,111	293,889	2,000,000
総会・会合費	2,200,000	2,245,830	△ 45,830	2,400,000
交通費	600,000	475,680	124,320	550,000
用品費	100,000	23,309	76,691	1,100,000
委託費	500,000	367,182	132,818	500,000
謝礼費	50,000	10,000	40,000	50,000
消耗品費	100,000	40,886	59,114	100,000
人件費	3,200,000	3,017,242	182,758	3,200,000
合同同窓会分担金	(@300×956) 286,800	286,800	0	(@300×932) 279,600
新人会員歓迎費	1,600,000	1,536,622	63,378	1,600,000
慶弔費	300,000	143,570	156,430	300,000
寄付金	200,000	200,000	0	200,000
雑費	37,740	14,134	23,606	52,843
予備費	100,000	0	100,000	100,000
特別会計	3,500,000	3,500,000	0	1,500,000
名簿発行準備金	—	—	—	—
奨学金基金	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
(小計)	19,974,540	18,460,390	1,514,150	
次年度繰越金	0	1,948,443	△ 1,948,443	
合計	19,974,540	20,408,833	△ 434,293	19,232,443

賛助金をご寄付下さった方へのお礼
香葉会の会員の皆様へのお願い

昨年もお送り頂き、厚くお礼申し上げます。
短大の今後が「香葉」の発行にどのような影響を受けるのか、香葉会として考えて行かなければなりません。皆様からの賛助金で「香葉」も発行ができることを祈念しております。皆様のご協力なくしては成り立ちません。よろしくお願ひ致します。(順不同・敬称略)

石田みのり 竹内広子 佐藤蘆薈
石塚夕乎子 小川美津江 桐原千恵
森 静恵 増田安喜子 山口周子
丸山勝代 松浦さぬ江 関美代子
岡田温子 鈴木みどり 竹内恵美子
佐々木晶美 渋谷貴子 中根由美子
竹内智恵子 内田康子 鈴木照子
白石真砂子 寺澤康子 三角恵子
中石あや 加藤珠美 古城房子
川上妙子 井上みずほ 熊谷君代
藪登喜子 岡田万里子 林 正子
岩野由美子 柴崎祐美子 松重朝子
小谷泰子 三野宮恭子 越智協子
田辺洋子 茅 昌子 田中久恵
飛奈幸子 田中久恵 大槻和子
原口規子 横部久仁子 柏木まり子
花岡淳子 田丸瑠美子 亀井則子
玉木宮子 神山喜代子 小山恭子
平井道子 西村ゆき 佐藤仁美
田代節子 月本鈴子 柴田光子
菅野弘恵 菅野ちよ 安藤恵子
金子ちよ 徳江奈美 寺岡利子
徳江美和 徳江美和 吉沢敬子
吉川和子 長崎洋子 柳下紀子
小畑 薫 小野江まち子 影山直子
谷田部敦子 西山澄子 岩沢克恵
西山澄子 朝木圭子 鈴木久恵
前川美智子 朝木圭子 鈴木久恵

教職員

飛奈千枝子 二見アイ子 英文
土岐房子 竹内恵美子 卯之木優美子
中村英夫 出榮美子 高橋茂彦 山口はるみ
佐々木昭子 平尾富子 高山政子 西村麻由子
菊地安子 Wait 星子 柏瀬圭子 矢田宏子
坪井 昇 伊藤 進 平山則子
益 昌子 大島好恵 小島美淡 松野文子
古郡綾子 錦織マサ子 鶴見裕子
大石豊代子 英文II 成瀬節子 辺見裕子
中根悦子 芦部九女夫 苗加利毅彦 澤野洋子
城多恵子 富田欣一 千田節男 高橋静子
井田玲子 白田修良 川村陽太郎 江波戸房子
内田駒子 土田 忠 川村喜代 荒井敬子
渥美裕子 中村武雄 井出田幸子 菅原千代子
飯吉玲子 光畑 清 明石昌子 野尻良子
佐藤久子 岸 澄子 戸巻 薫

石田みのり 竹内広子 佐藤蘆薈
石塚夕乎子 小川美津江 桐原千恵
森 静恵 増田安喜子 山口周子
丸山勝代 松浦さぬ江 関美代子
岡田温子 鈴木みどり 竹内恵美子
佐々木晶美 渋谷貴子 中根由美子
竹内智恵子 内田康子 鈴木照子
白石真砂子 寺澤康子 三角恵子
中石あや 加藤珠美 古城房子
川上妙子 井上みずほ 熊谷君代
藪登喜子 岡田万里子 林 正子
岩野由美子 柴崎祐美子 松重朝子
小谷泰子 三野宮恭子 越智協子
田辺洋子 茅 昌子 田中久恵
飛奈幸子 田中久恵 大槻和子
原口規子 横部久仁子 柏木まり子
花岡淳子 田丸瑠美子 亀井則子
玉木宮子 神山喜代子 小山恭子
平井道子 西村ゆき 佐藤仁美
田代節子 月本鈴子 柴田光子
菅野弘恵 菅野ちよ 安藤恵子
金子ちよ 徳江奈美 寺岡利子
徳江美和 徳江美和 吉沢敬子
吉川和子 長崎洋子 柳下紀子
小畑 薫 小野江まち子 影山直子
谷田部敦子 西山澄子 岩沢克恵
西山澄子 朝木圭子 鈴木久恵
前川美智子 朝木圭子 鈴木久恵

加藤和子 上明戸華恵 福田しほり 坂本真理子
大竹サエ子 岡崎敬子 荒川百合子 佐藤美代
日下利枝子 長谷川不二 高斎香代子 岡崎淑子
中西愛子 山口佳子 雨宮慶子 吉岡八重子
白土紀久子 前田河弘美 田中晴子 安彦潤子
小濱朝子 矢野紀子 柳生二三 石田禎子
黒沢優子 小原三千代 松原恵代 飯田染子
吉屋保子 三富正枝 森田吉世江 五十嵐増枝 馬屋原利子
松野トシ子 元広弘子 寺内雅子 鹿野千鶴 鈴木恵美子
志賀ミチ 宮川愛子 小島純子 八木智恵子 辰沼滋子
二見文緒 稲垣愛子 宇田川キョウ 村岡愛子 大内昭子
稲垣愛子 宇田川キョウ 村岡愛子 大内昭子
郡司裕子 馬渡正恵 渡辺冨子 山口寿美子 足立求子
馬渡正恵 渡辺冨子 山口寿美子 足立求子
豊口麻希 渥美彰子 浅葉勝美 福岡世紀子
五十嵐節子 小林三恵子 内山道子 匿名
小出美智代 森 植子 祖父江有加
村田清美 池田陽子 菊地和子 工藤ひろみ
福井英子 大川幸子 古賀恵子 山内奈緒子
長田久美子 片方教子 松本博子 土田裕代
高橋美佐子 原田二三米 清水正子 土田裕代
末永裕子 山下美紀 島田絵里子 芝 久江
根城展代 飯塚まり子 石原律子 島田郷子
黒山恵子 齊藤道子 宮尾益代 長崎 薫
岡部良子 福崎浩子 三浦妙子 原由美子
坂内由紀子 星 友子 初山眞理子 岡本悦子
稲森みどり 清田恵美子 相吉典子 板谷越ふき江

幼教
工藤ひろみ
山内奈緒子
土田裕代
芝 久江
島田郷子
長崎 薫
原由美子
岡本悦子
板谷越ふき江



先輩諸姉へ求人のお願い

本学卒業予定者の就職活動につきましては平素より暖かなご援助、ご協力をいただき感謝申し上げます。

学生達は将来への希望を胸に企業の扉をたたいておりますが、昨今の社会情勢の中、女子学生への門戸は大変厳しいものになっております。

つきましては、先輩方のご関係で求人のお話がございましたら就職課へぜひお知らせくださいますようお願い申し上げます。

〒236-8503 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 787-7868

関東学院女子短期大学就職課 Fax (045) 781-1491

香葉第29号

平成12年10月1日 印刷・発行
関東学院女子短期大学・香葉会
代表者 古城 房子
横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236-8503
関東学院女子短期大学内
Tel・Fax (045) 787-7859

関東学院同窓会・香葉会誌